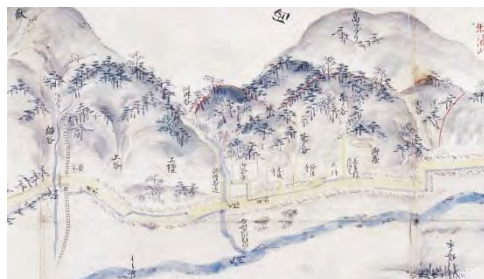


(1) 保存地区の概要

地区名	若狭町熊川宿
種別	宿場町
面積	約10.8ヘクタール
選定年月日	平成8年7月9日
特徴	福井県若狭地方のほぼ中央部、山峡にある熊川宿は、江戸時代に京都と小浜を結ぶ若狭街道の物資流通の中継拠点として繁栄しました。街道に沿って用水路が流れ、江戸時代から明治、大正の伝統的な建物が軒を連ね、歴史的な町並み景観を良好に伝えています。

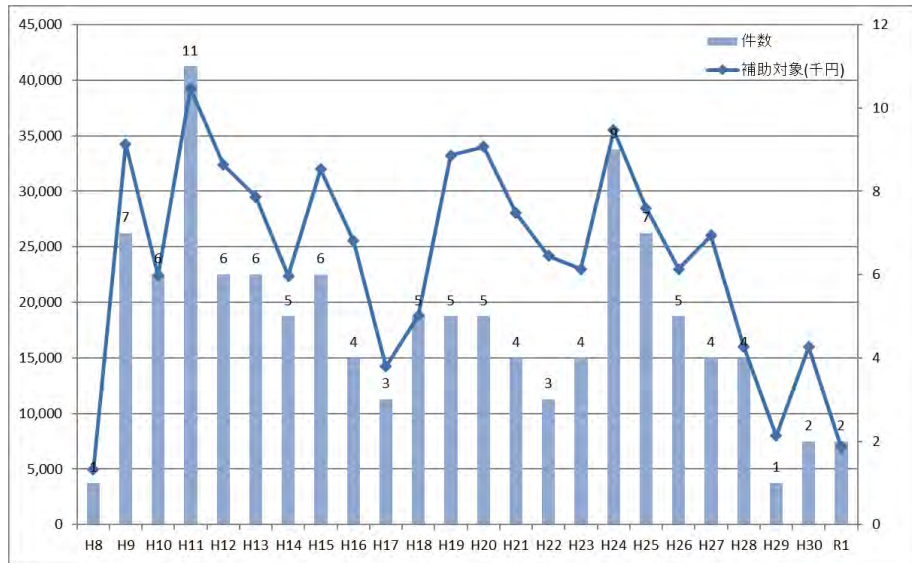
(2) 保存地区のあゆみ

昭和42年	熊川文書が県指定文化財となる
昭和56年	町並み保存対策調査(福井大学)地元まちづくり組織の設立
昭和60年	さば街道熊川宿の町並み調査(日本ナショナルトラスト)
平成6年	熊川まちづくりマスタープランの策定
平成7年	鯖街道・熊川宿整備総合計画の策定 歴史国道の選定(旧建設省)
平成8年	重要伝統的建造物群保存地区に選定
平成9年	文化財を活かしたモデル地域づくりに選定
平成10年	伝統芸能保存会、伝統技術研究会の発足
平成11年	道の駅「四季彩館」、景観整備工事(中ノ町)
平成12年	「手づくり郷土賞」の受賞、いっぷく時代村の開催
平成14年	白石神社山車復元・見送り幕復元
平成15年	熊川番所復原 まちづくり憲章・申し合わせ事項の制定
平成16年	ブータン王国との歴史的建造物保存をテーマにした交流
平成17年	景観整備工事(下ノ町、上ノ町)
平成18年	第二次熊川マスタープランの策定
平成19年	日本風景街道に登録(国土交通省)
平成20年	熊川宿の防災まちづくり計画の策定
平成23年	近隣火災通報システムの構築
平成24年	空き家を活かした移住推進事業の実施
平成25年	荻野家住宅(倉見屋)が重要文化財に指定
平成26年	全国伝建保存地区協議会 熊川宿大会
平成27年	「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産に認定
平成28年	日本遺産の大使 村田吉弘氏の建物改修
平成30年	街道シェアオフィス&スペース「菱屋」・熊川宿若狭美術館オープン



(3) 保存地区の保存と整備

伝統的建造物	建築物 211件 工作物 132件
環境物件	22件
伝建条例制定	平成7年10月 1日
保存地区決定	平成7年12月28日
保存計画決定	平成7年12月28日



伝建制度における保存修理・修景事業の推移(件数, 事業費)

歴史的町並み風景の復原



平成3年



令和元年

伝統的な建物を保存するきっかけ(旧逸見勘兵衛家住宅)



修理前



修理後

周辺環境整備(電線の地中化, 道路の美装化, 案内板の設置)



電線の地中化



地道風舗装



保存地区案内板

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 伝統的建造物等の活用



【若狭鯖街道熊川宿資料館「宿場館」】
旧熊川村役場を資料館として改修し、熊川宿や若狭街道(鯖街道)の歴史について展示公開している。地元住民による公開施設管理組合が組織され説明員として活躍している。(H9.5オープン)



【旧逸見勘兵衛家住宅】
旧熊川村の初代村長逸見勘兵衛、その子息で伊藤忠商事二代目社長となった竹之助の生家。令和2年4月から指定管理者(一社)熊川プロジェクトが宿泊施設(母屋・蔵)として運営している。(H10.4オープン)



【街道シェアオフィス&スペース「菱屋」】
近年は空き家になっていた熊川宿を代表する大店を、往時の雰囲気を残しながらリノベーション。事務所、ショップ等のオフィスやギャラリー、スタジオ等に利用できるスペースを開設。(H30.4オープン)



【熊川宿若狭美術館】
熊川宿の中枢に位置する古民家を改修した施設で、障がい者アート、子ども美術、現代美術作品を展示。美術の視点から新しい共生社会の構築を目指している。(H30.5オープン)

その2 観光客の受皿づくり



道の駅「若狭熊川宿」の整備(H11.5オープン)



地元語り部による案内



地元小学生による語り部

日本遺産認定による保護の動き

鯖街道マンガミュージアム、ジオラマ、ラッピングバスにより鯖街道の知名度向上



(5) 住民等の取組み

若狭熊川宿まちづくり特別委員会(まちづくり活動, 交流事業)



熊川宿いっぷく時代村実行委員会(イベントの開催)



熊川宿伝統芸能保存会(てっせん踊りの復活, 継承)



熊川宿おもてなしの会(宿泊施設の運営等)



熊川宿町並み保存技術研究会(伝統建築技術の継承)



熊川宿葛振興会(熊川葛の製作技法を継承)



熊川宿自主防災会(防火訓練, 近隣火災通報システムの整備)



熊川宿古文書研究会(熊川御用日記を解読)

